

大人がときめく毎日のおしゃれ満載！

FUSOSHA MOOK

〔特別付録〕

大人の初心者のための
オンライン通販
完璧
ガイドブック



おしゃれを愉しみたい大人へ

これから 似合う服 の私が

おしゃれな人の
「お気に入り」スタイル

高橋喜代美さん（モデル）

藤原美智子さん（ヘアメイクアップアーティスト）

高山泰子さん（「プレインピープル」ディレクター）他



これからの
大人に似合う、
服を楽しむ新ルール5

私らしい、日々の暮らしと
心地よい服

chizuさん（スタイリスト）

吉谷桂子さん（ガーデンデザイナー）他

私たち世代が
選ぶ
スニーカー



新・旧のベーシック服で 背筋をシャンと!

江面旨美さん (バッグ作家)



バランスと個性を逃がす ジャケットスタイル

江面さんのおしゃれを支える黒、白、紺をふんだんに使って。黒いジャケットと紺色のサルエル調のデニムパンツは、どちらも親交のあるイラストレーター大橋歩さんが手がける“イオグラフィック”で。「とても着やすい圧縮ウールのジャケットに、白いTシャツで抜け感を意識しました。パンツにボリュームがあるので、上はコンパクト。自作のバッグですが、斜めがけすると両手が使えて便利です」。足もとは黒い革靴と黒いソックスで。



私はいくつかの暮らしと心地よい服

YOSHIMI EZURA

アトリエでの作業には ワークコートとデニムが活躍

イタリアを旅したとき、多くの労働者が着ていたワークコートにひと目惚れ。それ以来、自身の作業着として愛用しています。「ワークウェアの質実剛健さに惹かれます。汚れ防止と寒さ対策にうってついで、カシミヤのニットにデニムを合わせました。作業するときにはいつもこんな感じ」。デニムは久しぶりという江面さんが選んだのは「グランママドーター」のストレート。デニムの生地端に織り込まれた赤いライン(赤耳)に合わせてソックスも赤。「赤を身につけると気持ちがあがりますね」。

“好き”を大事に装いにも気持ちの変化を

“umami bags (ウマミバッグス)”の名前でバッグのデザインと制作を、1人コッソコツと続けてこられた江面旨美さん。トレードマークの短く切りそろえた前髪に丸眼鏡は、アトリエ兼自宅に掲げられた看板にも描かれています。

ドアを一步入ると白を基調にしたインテリアや器選び、花の飾り方ひとつひとつに、暮らしを大切にしながら楽しむセンスと工夫が詰まっていました。

江面さんのおしゃれは、シンプルなのにどこかムードがあつて、それはご自身が作るバッグにも似た潔いカッコよさです。

「私自身、おしゃれに自信なんてないんです。でも昔からベーシックなものが好きで、ルーツや物語のあるものに胸キュンしていました(笑)」

今回、披露してくれた着こなしのなかには、20年前に手作りしたレザーコートや、30年前にスキイに行くからと買ったメンズサイズのニットが堂々、登場します。

「ベーシックの良さは、着なくなったら“またいつか”という気持ちで寝かせておけること。そのうちおしゃれサイクルが一周回って、着てみたくなるから不思議です。でも年齢を重ねると、体つきにメリハリがなくなってくるのでしょ。せめてどこかパリッとした素材を取り入れ、背中がシャンとして見えるように心がけなければ」

Yoshimi Ezura

えづらよしみ

20代の頃、某雑誌の「職人になる」企画をきっかけにカバン作りの道へ。現在は半年に1度のペースで個展を開きバッグを販売。12月に高知の「giggy² (ジギジギ)」で個展を開催。

<https://umamibags.net/>

揺れるツイードパンツでレザーコートも優しげに

ビッグサイズのレザーコートも江面さんお手製。ここ数年続くオーバーサイズ流行りにあやかって、久しぶりに袖を通すことに。「ペー
ジュのツイードが気に入っている『ユーモレスク』のパンツに、黒
のニットを合わせました。ついパンツも黒を選びがちですが、革
の質感がハードですから、少しでも軽やかに着こなしたくて」。「ハ
ウトゥー リブ」のバッグを斜めがけして隣町まで買い物へ。



Close Up

大きな色石が目惹くリングが、着こなしのちょうどいいアクセントに。大ぶりのリングは指を華奢に見せてくれるそう。



世の中が自由になって
よそ行きと普段着の
差がなくなりました。
それが心地よいと感じます

秋冬に真っ白の
スカートをはくと
すーっと
明るい気持ちに



Close Up

アクセサリは大きめをたっ
ぷり。時計に加え、バングル
やブレスレットに指輪も複数。
シルバーでそろえて統一感を。



厚みのあるニットの首もとに
負けないよう、春物のテーラ
ードジャケットを下に。ネイビ
ー×ネイビーがシックで素敵。

手持ちニットを重ね着や冬の白で鮮度高く

暖かそうなネイビーのニット、実はこれが30年前のものです。英
国製の山登り用でしっかりした作り。「今の私にはちょっと重たく
感じるので、『コムデギャルソン』の白いスカートを合わせます。
男性用ニットは丈も長いのでベルトで『ここがウエストですよ!』と
主張しないと(笑)」。ベルトの一片を長く垂らすことで縦線が強調
され、ほかの黒い小物たちと相まって着こなしが引き締まります。

スタイルの決め手は小物使い

靴やバッグはクラシカル、アクセサリは大ぶり。
重ね合わせた小物が、江面さんらしさにつながっていきます。



黒革のひも靴一足
足元はおごり調



アクセサリは
大きめをたくさん



ひも靴には
ソックスを合わせます



色は黒。素材の
表情を楽しみます

3	1
4	2

3. 「私が歩きはじめた頃から、母は私に革靴をはかせてくれました。だから「よそへ行くときは革靴をはく」ことが染み込んでいるんですね。愛用は「コムデギャルソン」、「グイディ」など。

4. 足になじんだ磨き込まれたひも靴は、イタリアの「グイディ」社製。秋口はソックス、冬はタイツを合わせます。「パンツとソックスの間にほんの少し、肌が見えることでバランスが整います」。

1. 少しずつ集めたお気に入り。写真はごく一部で、銀のブローチは彫刻家、掛井五郎さん作。「視線がアクセサリに向くので、シミやシワをいくらかカモフラージュしてくれるよう（笑）」。

2. 愛用しているバッグたち。色は黒一辺倒ですが、素材も形もさまざま。「以前は斜めがけばかり使っていましたが、最近はいろいろ。カジュアルなクロコ（左から2番目）が今のお気に入りです」。

バッグの中もワクワク!

おしゃれな人の 小物SELECTION

センスのいい人はどんな小物を使っているの？
そんな好奇心を満たす愛用品を拝見。実用性と
個性を兼ね備えたマネしたくなるラインナップです。

photograph:Tadaaki Omori, Shohei Kanaya, Kazu Natsume
edit&text:Maki Mukai



▶ 江面旨美さん フェイスは丸でも四角でも。ちょっとごついことと黒のレザーベルトが共通項。「外出するときは必ずつけていきます。時計もアクセサリの一部という感覚なので、バングルとの重ねづけを楽しんでいます」

WATCH 時計



▶ 吉谷桂子さん 「庭仕事ではマニキュアも指輪もできないので、せめて時計が腕でキラッと輝いたら」というコレクションは、ため息が出るほど。最近では夫から贈られたという機能美に惚れ込んだ「アップルウォッチ」一辺倒。



NOTEBOOK ノート

▶ 吉谷桂子さん 好みのノートはスケジュール帳として自らカスタマイズ。「服装はミニマムが目標、なんて言いながら、かわいいプリントのノートを見つけては買ってストック。バッグの中で目立つのでよしとしています(笑)」

▶ 大貫まりこさん 「メガネが大好きで、気分を変えてクラシックな雰囲気のあるルーベも愛用。大人っぽく、使用する仕草が女優さんのようでエレガントです」。ネックレスとして、コーディネートアクセントとしても活躍。アイウェアネックレス ¥23,000 / ルーベコリエ



▶ 松尾たいこさん 「これはかけないでしょ!というタイプが似合うと言われるんです(笑)」。大きめのフレームは女優サングラスと呼びたくなるデザイン。手前のクリアは「for HER」、奥の2本は福井県の「田中眼鏡本舗」で。

▶ 江面旨美さん トレードマークのメガネは、ブランドもさまざま。透明のセルは京都の「眼鏡研究社」(現在は閉店)で黒縁は「TEO(テオ)」。サングラスは「アンバレンティン」のフラットフレームに中・近両用レンズを入れて。「その都度かけ替えて楽しんでいます」



GLASSES メガネ

→江面旨美さん（2点とも）「もったいなくて大切に使っています」というのは、鹿児島県の障がい者施設「しょうぶ学園」に在籍する方の作品。味のあるタッチと文字のバランスがたまらなく魅力的。

↓数年前、自分用に作ったキュートなナイロンバッグ。「切りっぱなしなのでほつれもあるんですよ」



↓松尾たいこさん「稼働率が高いのは、軽くて小さくためて配色が気に入っている左のお気に入りブランド「Yonetomi」。東京・代々木上原への愛が高じて買ったトートや「ミュベール」の女王トートも。ファッション同様、エコバッグもさまざまなタイプを愛用。



ECO BAG

エコバッグ

↓吉谷桂子さん「海外の美術館のショップやブックストアなどで気に入ったデザインがあるとつい手が伸びてしまっ。素材はどれもコットン。おしゃれなロゴがセンスよく配置されていて、肩にもかけられる、選りすぐりです。」



↑chizuさん「気分を選んで毎日持ち歩きます」。白地のバッグとサンフランシスコ MoMA のマルチストライプはお土産。黒は「ユニクロ」が表参道にできた際に発売された限定のロボットハチ公。



CARD CASE

名刺入れ

↑山中和みこさん「エコバッグは軽いのがいちばん」。深みのあるパープルが気に入ったというアウトドアブランドのナイロン製。びっくりするほど小さくたためます。

→向井真樹さん「2020 年から新しいタームが始まると聞き、ならば今まで持ったことのない色を、とグリーンをチョイスしました」。「スマイソン」の型押しはマチ幅が広く中は二層式。



↑山中和みこさん「手の中にしっくりとなじむところが「Tokizaki」の革小物の魅力ですね」。装飾のないスッキリとしたデザインのなかに、角を丸く仕上げた繊細さが光ります。



→ 山中とみこさん 「駅員さんに『いい財布ですね』と声をかけられたことがあるんですよ(笑)」という長財布は丈夫な革製でポケットがたくさんの“Tokizaki”。



→ 栗久野さん 「この素材が好きで何度も買い替えましたが、廃盤となり最後のひとつに」。“キャサリン ハムネット”の型押しは素材愛の強い栗さんらしいセレクト。



→ 江面旨美さん 財布も黒レザー派。「上は“アーツ アンド サイエンス”でみつけたラクダの革の長財布。自分でステッチをかけ、アレンジを効かせて使っています。下は手もとに小さめのクロコダイルがあったのでまるごと使って作りました」



WALLET

財布



→ 向井真樹さん 荷物をなんとか少なくしたくて、長財布から“J & M デヴィッドソン”の手のひらサイズの二つ折りに。「緑のパンチングのディテールもポンポンの可愛らしさもツボでした」

← chizu さん 「かわいいだけでなく動物たちの表情が好きで、長年使っています」。下はハワイ在住の友人の手づくり。「大きい方はクラッチバッグ代わりに使うこともあるんですよ」



→ 吉谷桂子さん 「マスクは白でなくちゃという考え方はやめ、コーディネートの一部と思うようになりました」。その日の装いに合わせて選べるようにと、シックな色を揃えているそう。



→ 栗久野さん 「画家で絵本作家のミロコマチコさんの展覧会で購入。夫がクマ、私がキツネを選びましたが今では二つとも私が使っています(笑)」。手に取るたびに元氣になれそうです。

POUCH

ポーチ

→ 松尾たいこさん 「肌が弱いのでつけ心地が最優先」。グレーは福井県で作られたひんやりフィットマスク、左下は“モンベル”の抽選で当たったもの、上は全色持っている“CASUCA”。小さなロゴがおしゃれでよくほめられます。



MASK

マスク